

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.77



2018年2月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目 次

- 第93回天皇杯・第84回皇后杯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
全日本選手権大会の結果
- ウインターカップ2017・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
第70回全国高等学校選手権大会
- バスケットのボールの歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・歴史部・・・・ 17
- 一橋大学バスケットボールクラブ講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・普及部・・・・ 24
1930年代の東京商科大学（現一橋大学）の試合
- 住田 正二さん逝く・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小澤 正博・・・・ 26
- 人物抄 小笠原 義昭さん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- 会員だより
Wリーグオールスター2017-18 in TOKYO・・・・・・・・・・・・池田 理・・・・ 32
東京ガールズコレクション2017 A/W とコラボ

スポーツと障がいのある人達・・・・・・・・・・・・上谷 富彦・・・・ 36
2020年のレガシーに向かって

アジアのバスケット好きの仲間たち・・・・・・・・・・・・鈴木 承二・・・・ 38
2017年アジアシニアバスケットボール大会
- 訃報・事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
- プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

第93回天皇杯・第84回皇后杯

全日本選手権大会の結果

[編集部]

正月恒例のこの大会は、今回から大会方式が変更になったと共に、大会名も「全日本バスケットボール選手権大会」と改名された。

1月4日から7日まで、「2020 東京オリンピック」の会場となる「さいたまアリーナ」で開催されたファイナルラウンドへ出場したのは、3次ラウンドを勝ち抜いた男女各8チームで、男子ではB1リーグ所属チーム、女子ではWリーグ所属チームであった。

かつて、世界選手権大会を開催したさいたまアリーナは、バスケットボールの収容人員が3万人を超える大きさで、会場入口には巨大なバスケットのボールが飾られ、この珍しいボールをバックに写真撮影する多くの人々の姿が見られた。

これまで代々木第一体育館で開催されてきた雰囲気と比べると、会場が大きい分観客がまばらに見え、中には「臨場感に欠けるね」と感想を漏らす人もいた。



2017 シーズン競技方式

今シーズンから採用された全日本選手権大会の競技方式は以下の通りで、これまでカテゴリー別に与えられていた出場枠が廃止され、高校生以上のJBA登録チームに全国47都道府県で1次ラウンド出場資格が与えられる。

また、男子のB1、B2所属チーム（クラブ）は、2次ラウンドもしくは3次ラウンドからの出場となり、女子Wリーグチーム（クラブ）は3次ラウンドからの出場となった。

これによって、社会人と大学の全国大会上位チームの参加がなくなったので、どのチーム（クラブ）もファイナルラウンドへ向けての出場挑戦は、1回だけとなり、例えば、これまでインカレで負けたチームが地域予選へ出場して出場資格を得るようなことはなくなった。

<1次ラウンド> 各都道府県別開催への出場チーム

男子： B3、実業団、クラブ、教員、大学、高専、高校、専門学校他登録チーム

女子： 実業団、クラブ、教員、家庭婦人、大学、高専、高校、専門学校他登録チーム

この1次ラウンドはチーム数が多い都道府県では、春6月頃からの開催となり、トーナメントを勝ち上がった1チームに2次ラウンドへの出場資格が与えられる。

チーム数の多少にかかわらず、各都道府県で勝ち上がった代表チームは、男女とも実業団、クラブ、大学、高校と多彩な顔触れになり、それぞれ次のラウンド突破を目指して各地方別エリアごとに開催された2次ラウンドへ出場した。

<2次ラウンド>

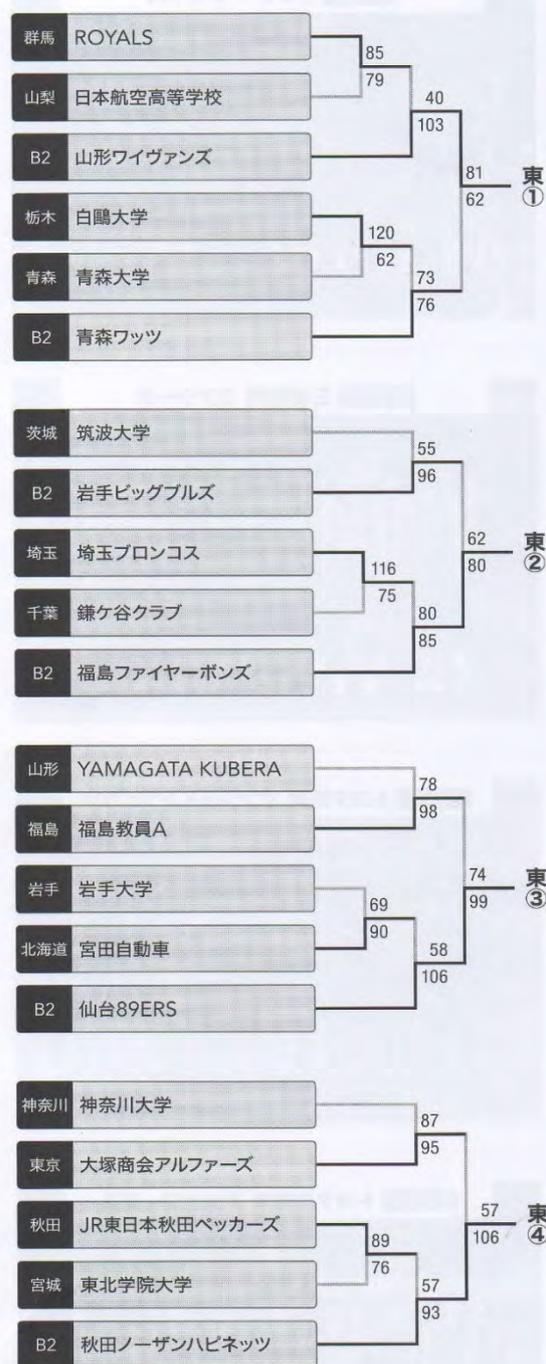
2次ラウンドは、男子が各都道府県代表47チームとB2の18クラブ、合計65チーム（クラブ）、女子は各都道府県代表47チームによって開催された。

開催は、B2を含めて東日本エリア、中日本エリア、西日本エリアごとにブロック別トーナメント方式によって行われ、各々のブロックを勝ち上がった1チームに3次ラウンドへの出場権が与えられる。

2次ラウンド 東日本エリア 釧路（北海道）大会結果

<男子 21チーム>

<女子 15チーム>



2次ラウンド 中日本エリア 黒部（富山）大会結果

<男子 21チーム>

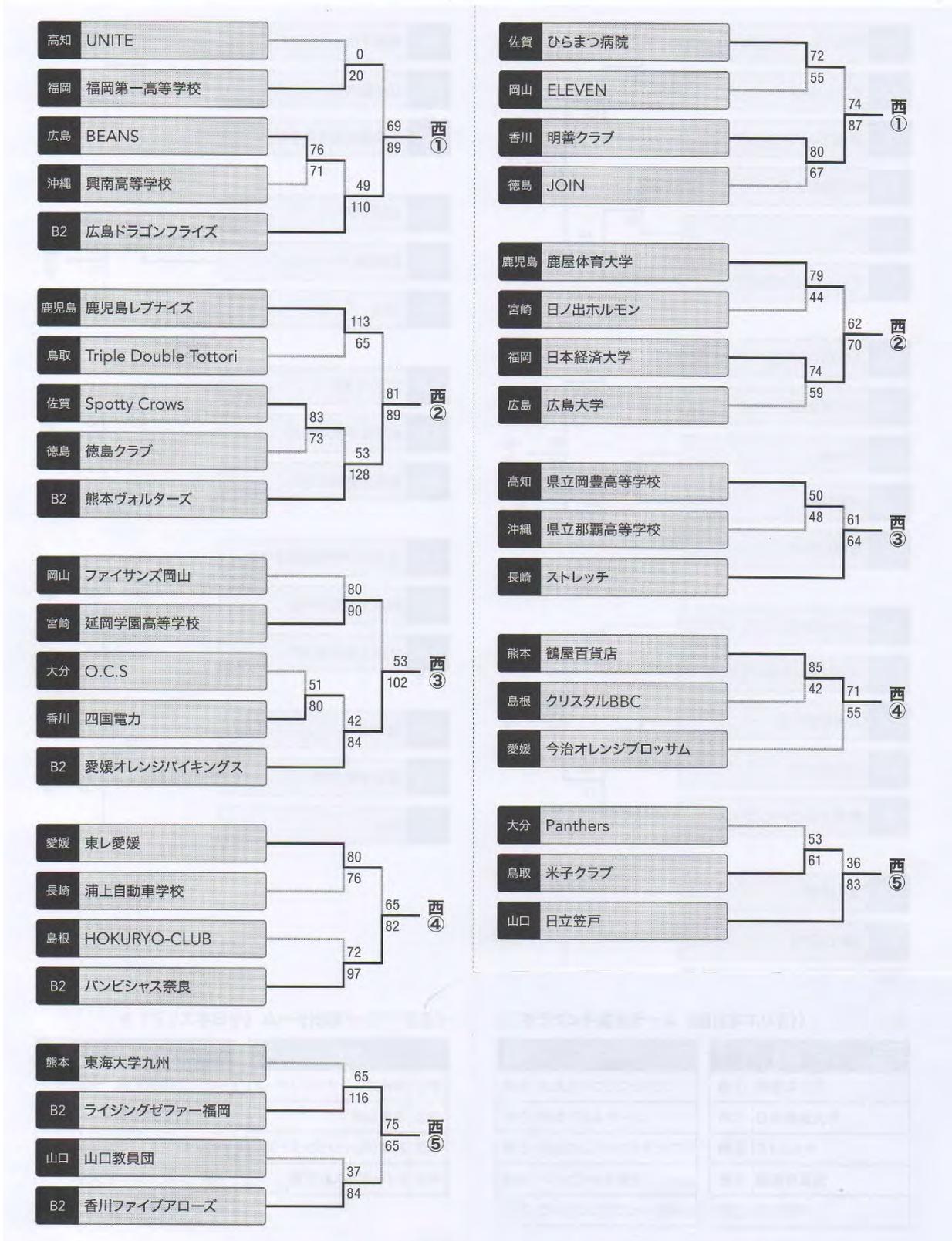
<女子 15チーム>



2次ラウンド 西日本エリア 中津（大分）大会結果

<男子 23チーム>

<女子 17チーム>



以上の結果、3次ラウンドへ進んだチームは、男子では全てB2チーム（クラブ）で、学生は姿を消した。一方女子では高校、学生、クラブなどが勝ち残り3次ラウンドでWリーグチームに挑むことになった。

<3次ラウンド 男子>

3次ラウンド男子では、2次ラウンドで勝ち残った13チームにB1リーグ18チーム（クラブ）を加え、合計31チームが8ブロックに分かれ、トーナメント方式で開催された。3次ラウンドは、11月25日、26日に全国8都市（盛岡市、大田原市、新潟市、平塚市、京都市、堺市、今治市、熊本市）において開催され、各ブロックの勝者が正月に開催されるファイナルラウンドへ向けてしのぎを削った。



以上の3次ラウンドで勝ち残ったのは、いずれもB1リーグチームで、各ブロックの勝者8チームが正月のファイナルラウンドへ出場することになった。

<3次ラウンド 女子>

3次ラウンド女子は、2次ラウンドで勝ち残った15チーム（クラブ）にWリーグ12チームを加えた合計27チームが8ブロックに分かれ、トーナメント方式で開催された。

3次ラウンドは、男子と並行して11月25日、26日に全国8都市で行われ、各ブロックの勝者がファイナルラウンドへの出場権を得ることとなった。



女子は、大学7チーム、高校1チーム、実業団4チームの他、クラブチームがWリーグチームに挑んだが、結果的に、全てのブロックで勝ち残ったのはWリーグチームで、その力の差は歴然。Wリーグ下位チームも勝ち残ることはできず、ファイナルラウンドへ進んだのはWリーグ上位の8チームであった。

<ファイナルラウンド>

天皇杯、皇后杯争奪のファイナルラウンドは、1月4日に男子、5日に女子の準々決勝戦が行われ、6日男女準決勝戦、7日に各決勝戦が開催された。

ベスト4に残ったのは、男子で昨年優勝した千葉ジェッツをはじめ、京都ハンナリーズ、シーホース三河、川崎ブレイブサンダース。女子では連覇中のJX-ENEOSをはじめ、トヨタ自動車アンテロープス、富士通レッドウェーブ、デンソーアイリスであった。

女子準決勝戦

	1P	2P	3P	4P	計
JX-ENEOS	24	13	24	17	78
トヨタ自動車アンテロープス	9	14	20	9	52

高さで上回るJXは、出だしから#21 大崎や#10 渡嘉敷がフル回転し、開始5分で14-2と大幅リード、第1ピリオドで15点差をつけたJXは安定した試合運びと圧倒的なリバウンドでトヨタ自動車を寄せ付けず決勝戦へ。トヨタ自動車は#1 大神が気を吐いたが第1、第4ピリオドで全体的にシュートが決まらず1桁得点となり敗退。

	1P	2P	3P	4P	計
デンソーアイリス	20	16	12	28	76
富士通レッドウェーブ	18	9	22	13	62

序盤デンソーが#8 高田らの確率高いシュートで連続得点すると、富士通も#11 篠崎、#15 山本らの勢いで加点し接戦で第1ピリオドを終わる。第2ピリオド、デンソーが#12 赤穂、#8 高田らが確実にシュートを決めたのに対して、富士通は得点が伸びず前半9点のビハインドとなる。

第3ピリオドに入ると、今度は富士通が積極的に攻め、#10 町田、#11 篠崎の連続得点で1点差に詰め寄る。その後はお互いに譲らず一進一退が続き、49-48と富士通が逆転してこのピリオドを終わる。

勝負となった第4ピリオド、デンソーは#8 高田らが連続得点し、これに#13 伊集のドライブインなどが加わって一気に富士通を突き放す。デンソーが攻撃に拍車をかけるのに対して富士通はシュートが決まらず、終盤に#10 町田が3ポイントシュートを決めるなどして食い下がったが及ばず、デンソーが決勝戦へ進出した。

男子準決勝戦

	1P	2P	3P	4P	計
千葉ジェッツ	27	23	26	24	100
京都ハンナーズ	11	16	17	19	63

昨年の覇者千葉は、ポイントガードの富樫を足の怪我で欠いたが、終始安定した攻撃で相手を寄せつけず、100点ゲームで快勝。#34 小野のアウトサイドシュートが面白いように決まると、#3 パーカー、#21 エドワーズがゴール下を支配して大量得点し、翌日の決勝戦へ向けて勢いをつけた。

	1P	2P	3P	4P	計
シーホース三河	23	15	23	26	87
川崎ブレイブサンダース	13	8	22	25	68

前半三河は#32 桜木、#3 オルトンのインサイド陣にボールを集めて攻撃、対する川崎は#14 辻の3ポイントシュートや#7 篠山のドライブインなどで得点するが、イーギーミスが続いて得点が伸びない。三河は#6 比江島、#14 金丸らも順調に得点しリードを広げるが、川崎はその後もシュートの成功確率があがらず、#22 ファジーカスにボールをまわすものうまく得点できず、ロースコアで前半を終える。

後半に入ると、前半とは一転してお互いに点の取り合いになり、三河は#14 金丸の3ポイントシュートや#32 桜木のインサイドなどで加点、川崎も#22 ファジーカスの連続ゴールに#7 篠山のシュートなども加わって接戦となる。しかし、前半の得点差は縮まらず、三河が61-43とリードして第3ピリオドを終える。第4ピリオドで追いつきたい川崎だったが、シュートが決まらず開始から3分間無得点となる。一方三河は#16 松井、#12 西川らが4本の3ポイントシュートを成功させ32点のリードを奪う。終盤、川崎は、#14 辻が気を吐いて4本の3ポイントシュートを成功させるが、前半の拙攻による点差は縮まらず、19点差をつけられて試合を終える。

女子決勝戦

	1P	2P	3P	4P	計
JX-ENEOS	15	25	22	22	84
デンソーアイリス	16	13	12	21	62

第1ピリオド、思うようにシュートが決まらないJXに対して、デンソーは#23 篠原や#8 高田らののびのびとしたプレーで得点し、開始3分で8-2と好展開となる。しかし、JXは、#11 岡本のドライブインから得点が始まり、#21 大崎のゴール下、#0 吉田のバスケットカウントなどで4連続得点して追いつく。その後はお互いに点の取り合いとなり、デンソー最小得点差リードでこのピリオドを終える。

第2ピリオドに入って、デンソーが#13 伊集、#15 稲井らのシュートで第1ピリオドの流れを継続する。タイムアウト後、JXも#0 吉田がドライブインや3ポイントシュートなどで気を吐き逆転する。中盤デンソーはファウルトラブルやミスによって失速すると、今度はJXが#52 宮澤の3ポイントシュート、#10 渡嘉敷のインサイドなどでのびのびと加点し、点差は一気に開いてJXの11点リードで前半を終える。

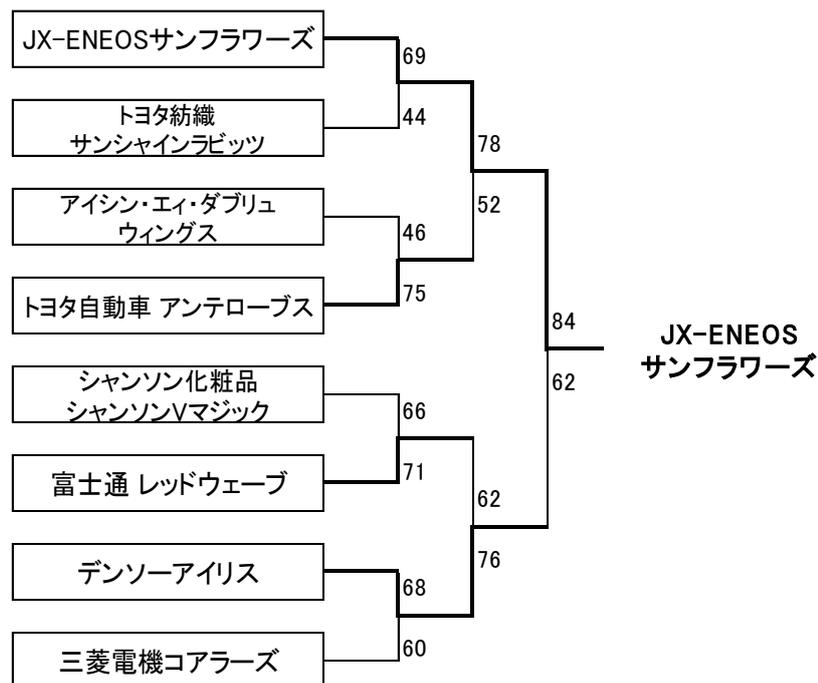
第3ピリオド、JXがディフェンスを厳しくするとデンソーのプレーが止まりボールも思うように回らなくなる。JXは#21 大崎や#10 渡嘉敷らのインサイドプレーに加えて#52 宮澤の3ポイントシュートもさく裂し、点差は広がる一方となる。デンソーも#8 高田、#12 赤穂が踏ん張るがJXの勢いは止まらず、62-41と大量リードでこのピリオド終了。

第4ピリオドに入ると、デンソーに疲れが出てミスが続き得点も止まる。対するJXは#11 岡本や#52 宮澤がバスケットカウントを沈めマイペースで試合を進める。体力的に優位に立ったJXはベンチメンバーも繰り出して攻撃を緩めずに得点、デンソーも#12 赤穂らがゴール下で踏ん張ったが得点差を縮めることはできず、20点以上の差をつけてJXが快勝し、5年連続22回目の優勝を飾った。

女子個人賞

MVP 宮澤 夕貴 JX-ENEOSサンフラワーズ 初受賞
大会ベスト5

氏名	チーム	備考
渡嘉敷 来夢	JX-ENEOSサンフラワーズ	8年連続8回目
大崎 佑圭	JX-ENEOSサンフラワーズ	2年ぶり3回目
宮澤 夕貴	JX-ENEOSサンフラワーズ	2年連続2回目
高田 真希	デンソーアイリス	2年ぶり4回目
赤穂 さくら	デンソーアイリス	初受賞



男子決勝戦

	1P	2P	3P	4P	計
千葉ジェッツ	21	26	29	13	89
シーホース三河	22	20	12	21	75

前年度覇者の千葉ジェッツは、ポイントガードの富樫を怪我で欠き不安な要素を抱えての決勝戦、序盤こそ競り合いとなったが、安定した試合運びで見事に連覇を果たした。

第1ピリオド、三河は#32 桜木のインサイド攻撃や#14 金丸、#6 比江島などのシュートで得点を挙げると、千葉も#21 エドワーズが走り#3 パーカーが3ポイントシュートを決めて対抗し、お互いに逆転に次ぐ逆転で拮抗し、最小得点差で終わる。

第2ピリオドに入ると、千葉が#10 チェンバース、#21 エドワーズが走って得点、対する三河も#6 比江島や#12 西川の速攻などですぐに追いつく。中盤、千葉の#21 エドワーズがゴール近くで頑張る得点を重ねると、三河がターンオーバーミスを重ねる。更に千葉は、インサイドから#34 小野へ素早いパスアウト、これを受けた#34 小野が連続3ポイントシュートを決め、7点のリードを奪う。その後、三河も#14 金丸の3ポイントシュートなどで追うが、千葉が47-42と5点リードして前半を終える。

第3ピリオド、三河は、#3 オルトン、#6 比江島が3ポイントシュートを沈めて反撃し、序盤に2点差まで迫ったが、ここから千葉の猛攻が始まる。調子に乗っている#34 小野が3分間に3本の3ポイントシュートを決めると、千葉は、その後もミドルシュートを確実に決めてチームを勢いづけ、得点を重ねる。一方、三河は、#32 桜木がファウルトラブルでリズムを壊し、6分間無得点が続きあつという間に千葉に大量リードされてしまう。

第4ピリオド、勝利が見えてきた千葉はボールを回して時間を目いっぱい使いながら攻撃、三河も#14 金丸の3ポイントシュート、#4 猪俣の3ポイントシュートなどで食い下がるが残り時間はどんどん減っていく。千葉は、富樫に代わる#11 西村がしっかりとゲームを作って三河を翻弄し、89-75の14点差で勝利し、昨年に次いで2年連続2回目の優勝を果たした。

千葉は外国人選手がインサイドを攻めると見せて、調子がいい#34小野へボールを集め、これを見事シュート成功へ持ち込んだ作戦が成功、トーナメントに強いチームカラーが表に出た。ちなみに、千葉の#34小野は3ポイントシュートの成功確率8分の4で50%、得点も外国人選手に次ぐ18点をたたき出している。



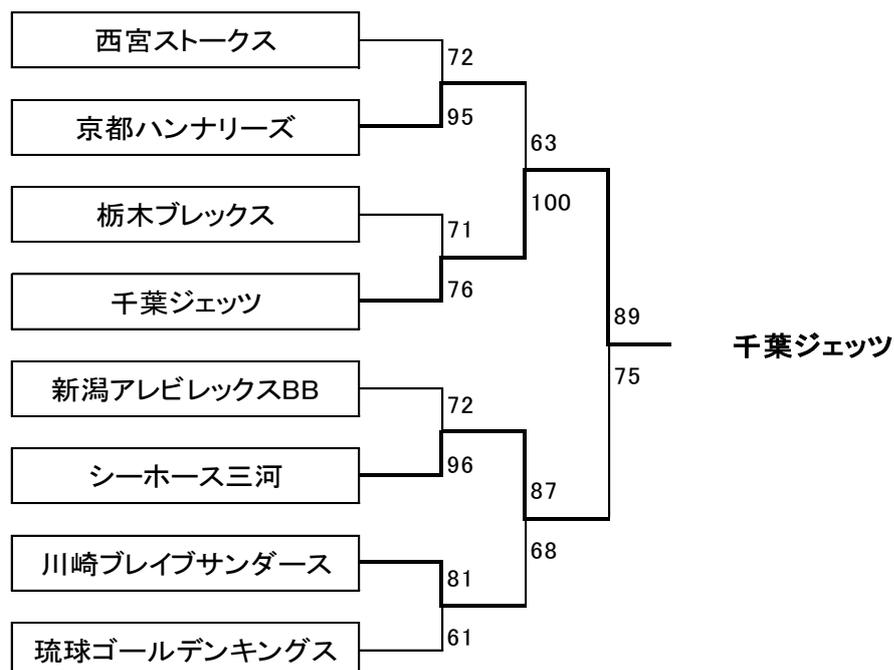
優勝を喜ぶ千葉の選手たち

写真提供 千葉ジェッツ

男子個人賞

MVP キャビン・エドワーズ 千葉ジェッツ 初受賞
大会ベスト5

氏名	チーム	備考
西村 文男	千葉ジェッツ	初受賞
キャビン・エドワーズ	千葉ジェッツ	初受賞
小野 龍猛	千葉ジェッツ	2年連続2回目
ダニエル・オルトン	シーホース三河	初受賞
比江島 慎	シーホース三河	初受賞



ウィンターカップ 2017

第70回全国高等学校選手権大会

[編集部]

年末恒例のウィンターカップ、昨年までの全国高校選抜優勝大会は、全国高等学校バスケットボール選手権大会となって東京体育館で年末12月23日から29日まで開催された。

ウィンターカップ2017は、本年度より夏季の全国高等学校総合体育大会（高校総体・インターハイ）バスケットボール競技大会から移行し、インターハイとともに高校バスケットボール界の王座を決める選手権大会として、前年度インターハイの第69回に次ぐ第70回全国高等学校バスケットボール選手権大会に継承されている。

全国高校選手権大会は、男女それぞれ47都道府県の各代表に高校総体1位、2位と開催地東京の3チームが加わり、50チームが参加する。

男子は、緊迫した接戦を制して、高校総体2位の明成が優勝し、高校総体1位の福岡大学附属大濠が準優勝、3位は新潟県代表の帝京長岡となった。決勝で対戦した2チームはともに3回戦で、明成は京都府代表の洛南に62-59、福大附属大濠は石川県代表の北陸学院に76-70と、辛勝している。男子は接戦の好ゲームが多くみられた。

女子は、大阪府代表の大阪桐蔭が優勝し、愛知県代表の安城学園が準優勝、3位は高校総体2位の桜花学園となった。高校総体1位で三冠を目指す岐阜女子は、大黒柱の#7バイ・クンバ・ディヤサンが緒戦で負傷してプレイができず、四回戦で、準優勝した安城学園に79-105のスコアで敗れた。また安城学園は、準決勝で東京都代表の八雲学園と接戦したが最後には圧倒し、90-85で決勝に臨んでいる。桜花学園は、優勝した大阪桐蔭に準決勝で54-79のスコアにより完敗している。

男女ともに留学生だけではないが、長身センターを擁するチームがゾーンディフェンスを組むため、外からのシュート力の有無で勝敗の行方が決まる。特に男子の対戦で拮抗するチーム同士では、厳しいディフェンスにより低得点となって最後までもつれる結果となっていた。

男子決勝進出チームの三回戦

決勝に進んだ明成と福岡大学附属大濠は、三回戦で薄氷を踏む思いをしている。両者ともに最後は踏ん張ったが、打つ手を間違えると、決勝戦進出ができなかったかもしれない。

優勝の明成は、京都府代表の洛南に62-59のロースコアで、勝ち進んだ。

準優勝の福大附属大濠も、石川県代表の北陸学院に76-70と辛勝している。

身長に勝る福大附属大濠は北陸学園にシュート成功率やリバウンド獲得には勝っていたが40%のフリースロー成功率はいただけない。

スコアのみ、次に掲載する。

	1P	2P	3P	4P	計
洛南	14	13	19	13	59
明成	9	18	17	18	62

	1P	2P	3P	4P	計
福岡大学附属大濠	18	17	22	19	76
北陸学院	15	19	20	16	70

<男子結果>

男子準決勝戦

	1P	2P	3P	4P	計
帝京長岡	21	14	10	11	56
明成	15	13	15	22	65

明成は、第1ピリオドの開始直後に帝京長岡がシュートミスする間、連続加点してリードするが、その後、3ポイントシュート攻勢を受けて、前半28-35で終わり、第3ピリオド終了で43-45とリードされていた。明成は、前半ゲーム開始からの厳しいゾーンディフェンスにより後半に入って足の止まった帝京長岡を抑える一方、勝負どころで3ポイントシュートを決め、終盤にはフリースローをきちんと決めて65-56のロースコアで決勝進出を決めた。

	1P	2P	3P	4P	計
福岡大学附属大濠	13	20	9	19	61
福岡第一	19	9	21	9	58

準優勝の福岡大学附属大濠は、立ち上がりに福岡第一に押し込まれたが、第2ピリオドにはゾーンディフェンスで逆転し、33-28で折り返した。後半も第3ピリオドには福岡第一が速い展開で得点を重ねて49-38と点差を広げる。第4ピリオド、福岡第一が福岡大附属大濠によるゾーンディフェンスを攻めきれない。試合の残り3分半、福岡大附属大濠は56-54と逆転する。残り3分を切って福岡第一は大黒柱の#50バムアンゲイが5ファウルで退場となり、流れが福岡大附属大濠に向き、結局61-58で福岡大学附属大濠が決勝戦へ進んだ。

男子決勝戦

	1P	2P	3P	4P	計
福岡大学附属大濠	16	17	23	16	72
明成	26	23	16	14	79

決勝戦は高校総体決勝で1点差であった同一カードとなり、1位の福大附属大濠は24年ぶり3回目の優勝を狙い、2位の明成は2年ぶりの雪辱を果たす一戦であった。

明成は、ゾーンディフェンスで福大附属大濠を抑えて前半に大差をつけ、余裕をもって後半に入った。終盤、明成は、福大附属大濠の猛攻に追われたがこれを振り切って、79-72で、2年ぶりの優勝を果たした。

<女子結果>

女子準決勝戦

	1P	2P	3P	4P	計
安城学園	22	19	23	26	90
八雲学園	12	24	20	29	85

安城学園は、第1ピリオドに厳しいディフェンスで八雲学園を抑え、その後の対等の闘いを凌いでリードを続けたが、八雲学園の外郭からのシュートが決まりだし、第4ピリオドに一時逆転された。安城学園は、その後、リードを奪うとオールコートプレスでしのぎ、90-85で決勝に進んだ。

八雲学園のシュート成功率は、安城学園を上回っていたが最後に詰め切れず、残念な結果となった。

3回戦で、山口県代表の県立徳山商工を相手に、女子個人最高得点記録を62点で更新した八雲学園#4奥山選手はこの時も44得点をたたき出している。

	1P	2P	3P	4P	計
大阪桐蔭	22	17	21	19	79
桜花学園	11	14	13	16	54

大阪桐蔭は、トータルで3ポイントシュートが10%、フリースローが40%とその成功率は低かったが、ゲーム開始直後から#15竹原選手がインサイドで高さを武器に桜花学園を抑え込み、そのまま最後まで進んで初の決勝進出を決めた。

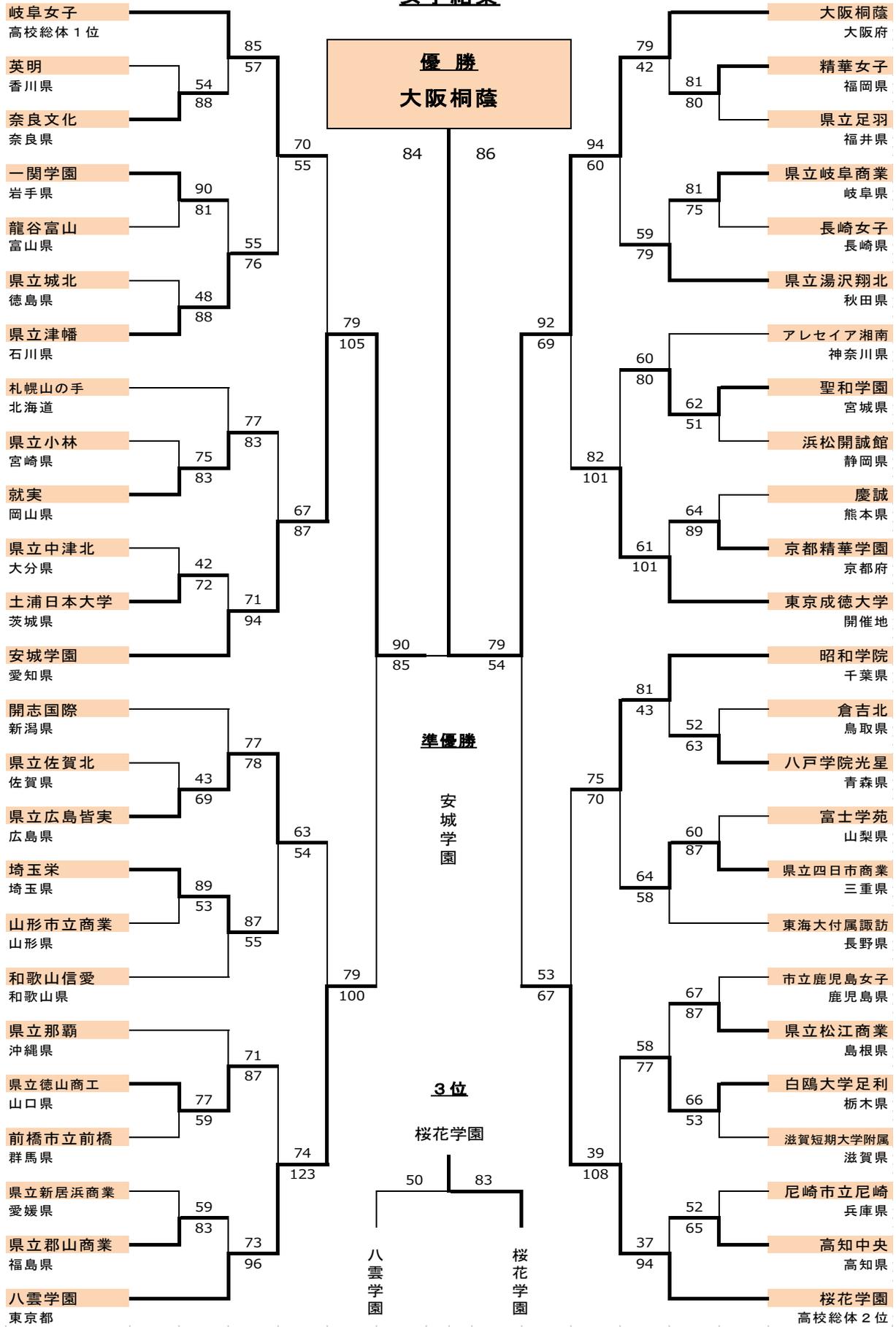
女子決勝戦

	1P	2P	3P	4P	OT1	OT2	計
安城学園	12	26	17	11	10	8	84
大阪桐蔭	16	14	15	21	10	10	86

いずれが勝っても初優勝となる決勝戦、安城学園は、第1ピリオドに大阪桐蔭の堅守で後れを取るが、大阪桐蔭の#15竹原選手を必死に抑える一方、第2から第3ピリオドにかけての怒涛の攻撃により55-45とリードする。第4ピリオドに、大阪桐蔭が開始直後と残り4分程から連続のシュートを決めて66-66の同点とし、試合は延長戦へ突入した。

延長戦は2回にわたり、いずれも、激しいディフェンスと力強いオフェンスで互いに攻め合い得点した。終盤で、大黒柱の#15竹原選手を5ファウルで失ったにもかかわらず、大阪桐蔭の勝負強さが安城学園を抑え、決勝戦に相応しい勝負を終えた。

女子結果



バスケットのボールの歴史

[歴史部]

バスケットボール競技の歴史を紐解く選択肢として、様々な用具（ボール・コート・リング）、ルールなどがありましたが、今回はボールの歴史について取り上げることとしました。ボールの歴史をまとめるに当たり、昨年からボールメーカー5社（スポルディング・タチカラ・ナイキ・ミカサ・モルテン）（五十音順、以下同様）に取材を重ねてきましたが、まとめて難渋していました。この度、幸いにしてこの企画の趣旨に沿った内容にまとめられている【『バスケットボールのボールの規格化に関する史的考察』（1940年までのルールの変遷とボールの宣伝広告からみて）】の論文があることを知りました。この論文は、当会とご縁の深い日本バスケットボール学会会員の富山大学人間発達科学部人間環境システム学科大川信行教授ご執筆のものであり、大川教授のご了解、および日本スポーツ産業学会のご許可を頂き、論文を活用させていただき編集を進めることになりました。

バスケットボールの歴史の始まりは、1891年12月21日に国際YMCA訓練学校（International YMC Training School）の教員をしていたジェイムス・ネイスミス（James Naismith）が冬期の室内用教材として創案し、最初にゲームが行われました。幾多のスポーツがある中で、バスケットボールの起源は明確に記録されています。

当初のリングは、桃の収穫かごでしたが、鉄の普及で今のリングに変わってきました。ルールもサッカーボール使用時代から、ドリブルをしない・ボールを抱える・ボールを持ち歩く等、競技を進めるに当たり、幾多の問題が発生しました。その後、改善を重ね1940年代に現在に近いバスケットボールルールに集約されてきました。

<ボールの歴史>

施設・用具・備品の開発はゴムと鉄の製造技術の急速な発展が多く近代スポーツの発展に大きく関わっています。

ボールはゴムの加工技術が年々向上し、開発・改良が加えられて進化してきました。バスケットボール競技は1890年代にサッカーボールで始められ、1894年に専用のボールとして、発祥の地（スプリングフィールド）の隣町マサチューセッツ州（チコピーフォールズ）の自転車メーカーのオーバーマンホイール（Overman wheel）社製のボールが世に出ました。並行して開発者のネイスミスの友人でメジャーリガー出身のスポルディング氏の設立会社【Spalding's & Bros社】にボールの製作を委託し、1894年後半からオフィシャルボールとして使用されました。

1894年当時のボールの規格は、ボールは丸く皮の袋で覆われたゴムの内袋で仕上げられており、円周30～32インチ未満とされ、内圧については定かでなく、試合球の準備は、ホームチームが用意する規定になっていました。

1894年頃までバスケットボール専用のボールはなく、公認球として既存のサッカーボールが1940年頃まで使われていました。その後、新しいスポーツに合うサッカーボールより

大きい新規格のボールを使用することとし、ボールの大きさと重さも決めて、プレーヤーが簡単にボールコントロールでき、且つ多人数でのプレーを予想したボールが模索されました。

初めての公認球：

1895年、オーバーマン・ホイール社はゴム製の内側を止める紐と空気弁を収納することが義務付けられていましたが、時代は進み、現在はシームレスボールに進化し、空気弁の対処はなくなりました。その後、ボールの規格が年を追う毎に進化してきました。

1896年から1940年代までは、外周30～32インチ、重さ18～23オンス、内圧6～15オンスで、6フィートの高さから落とし4フィート7インチの反発を要するとした簡単な内容が示され、年度ごとに多少の修正があったようです。

1929年代の大恐慌に合わせたようにボールの価格も高騰し、更に製造方法や規格もあまり変化なく8枚の鞣し皮の中にゴム製のチューブを入れ革ひもで絞めるという構造で、すべてが手作業でコストがかかっていました。

いくつかの業者が新しいボールの製造方法を模索していた中で、ウインヒル社(Win-Hill) Henry T. Winterbauer と鑄造メーカーの John T. Clark とで、1934年に新たな製造法が開発されました。

【Last-Bilt】という特許名の Spalding-【Top-Flite】という画期的なボールが仕上がって出回り、製造コストも安定化し、バスケットボール競技の普及に大きく寄与されたようです。

現在のボールの規格

ボールの種類	周囲(cm)	直径(cm)	重量(g)	採用クラス
7号	74.9～78.0	24.5	567～650	一般男子・(大学・高校・中学)男子用
6号	72.4～73.3	23.2	510～567	一般女子・(大学・高校・中学)女子用
5号(ミニ)	69.0～71.0	22.0	470～500	小学校用
3×3	72.0～74.0	23.2	580～620	スリーバイスリー用

内圧は高さ1.8mの高さからコート床面上に落として弾みの最高点が床から1.20～1.40mのこと(直径は目安)。

更に、2004年より、FIBAにより従来の茶色8枚から茶色とクリーム色の12枚のパネルも認められ、選手・観客・審判にとっても見やすくなり、観戦が楽しくなりました。

日本でのボールの開発

各ボールメーカー（五十音順）へのインタビュー内容は次の通りです。
各社の面接者（敬称略）を紹介し、ボールの写真に次いで歴史等を記述します。
その後に、メーカー対応に比較した表を添付します。

1. 【スポルディング】

マーケティング 中山 龍之介 アシスタントマネージャー



- 1976年 シカゴに、創業者のアルバートグッドウイル・スポルディング氏が
（メジャーリーグ・現シカゴ・カブスの投手として活躍した）【A. G. SPALDING &
BROTHERS】を設立
ネイスミスから依頼されボールの製作を担当し、1994年に公認球として記され使
用された。
- 1983年 NBAの公式球に採用される。
- 1997年 ZKマイクロファイバー人工皮革採用球を（WNBA）に採用
- 2012年 ヨーロッパの（ユーロリーグ）に公式球として採用

2. 【タチカラ】

高橋 渉 社長・大内 達也 相談役・MAMUSHI 氏



タチカラは 1915 年創業で、優良スポーツ用品の生産と販売を目的として、飯室運動具
製作所を創業しました。当時はハッピー姿でボールの製作をしていました。

その後、1934年に(合)タチカラ丸善商店として、社長（飯室豊三郎）が法人設立し、下
町の上野池之端から、事業展開をして関西・中国・韓国に国内生産した各種の競技用ボ
ール等を販売しました。

ボールメーカーとしては、日本で屈指の会社です。

1946年 現在の中央区にタチカラ(株)を設立

1949年 初期の検定球取得

- 1950年 2代目社長の飯室 至氏が、縫い目なしの革張りボール（シームレスボール）を開発し画期的な特許取得
- 1951年から日本各球技団体の公認球として指定を受ける（バスケット・バレー・サッカー等）
- 1964年 東京オリンピックでは公認球として使用され、メキシコ・モントリオール・モスクワのオリンピックに試合球として認定され使用されました（バレーも同じ）
【東京オリンピックの直前に競合（タチカラ・モルテン・イルマ・ミカサ・セブターの5社から）4社を選び全日本の合宿に各20個を提供し、試用した結果、一番使い易いボールとしてタチカラが選ばれました】
- 1985年 NBAのオフィシャルライセンス取得
- 1987～98年 スポルディング社の球技ボールの製造販売元に移行
- 1993年 タチカラUSA設立しましたが、経済状況の悪化で、しばらくタチカラとしてのボールの販売は休眠状態で現在に至っています
- 2013年4月 タチカラとして復活しました

バスケットボールファンの方々にはマイボールを保有していただくよう、計画しているようです。

バスケット以外のサッカー・バレーのボールはパキスタン・中国で製作しています。

3. 【ナイキ】

マーケティング本部コミュニケーションズ 山田 一成スペシャリスト



- 1994年 ウインターカップの スポンサーとなり1998年からオフィシャルボールとして使用
- 2007～2008年 ユーロリーグの公認球として採用される。
- 2008年 ウインターカップ公式試合球（モデル：ナイキ4005 JABBA）
- 2012年 以降 同上（ナイキエリートチャンピオンシップエアロック JBA）
合皮タイプで4枚パネルの構造となった。
- 2017～2018年 NBAのユニフォームに認定された。

ナイキのボール事業としては、高校生のウインターカップを柱に活動を行い、ナイキの持つ企業力名を發揮できるユニホーム（NBAに採用）やシューズ等に特化されるようです。

また、女子プレーヤーを介しながら、小・中学校生の支援を図るようです。

4. 【ミカサ】

ボール国内営業部 矢田部 隆博 執行役員



1917年 創業（広島）

ゴム製品の製造が活発であった終戦後、文部省（当時）からの要請で、ドッチボールの製造を幅広く、手がけていた中で、国民の体力増進が手伝えないかとの意向に合わせ、バスケットボールのボール作りに着手した

1958年 先代 秋民 社長時代にミカサと並行してモルテンを立ち上げ、主力をモルテンに移行しましたが、ミカサとして学校体育を基軸にボールの営業は継続しています。国体・高校総体・全中大会にC F 7000 & C F 6000が試合球として採用されています

*特殊天然皮革採用：グリップ性能・クッション性・シボの耐久性保持

1959年 J B Aの公認を取得しボールにロゴマーク【J A B B A】を冠した

1964年 東京オリンピックの試合球として使用された名門メーカーです

1968年 メキシコ&1972年ミュンヘンオリンピックにも試合球として採用されました

1972年 ミュンヘンオリンピックの試合球として採用されました

2006年 1 2 枚パネルの視認性の高い5 : 5のカラーコンビネーション（茶・黄）のボールがF I B Aに公認された

5. 【モルテン】

広報室 中森 慎太郎 課長・ボールプロダクトマーケティング 山本 貴晃 課長・東京支店 福田 賢治 副支店長



1958年 ゴム製品の製造業として、登清氏が創業

Moltenは（溶解する・铸造する）と言う意味の英単語から【古いものから新しいものに脱皮する】と言う意味。古くて良いものを積極的に取り入れる企業姿勢で取り組むことから名付けられました

1959年 第1号のボール完成

1960年 J B Aの認定球となる

1980年 国際バスケットボール連盟主催大会の唯一公認球となる

1997年 J B L / W J B Lの公式試合球となる

2004年 1 2 枚パネルのボールがF I B A主催大会の試合球に決まる

社名	創 業	種類
デ ス ポ ン グ	1876年 アルバート・グッドウイル・スボルディングが創業者 メジャーリーガーとしてボストンレッドスターキングス(現アトランタブ レーブス)で5年間プレイ後スポーツ店を開店	人工皮革
タ チ カ ラ	1915年に飯室運動具製作所を創業 1934年 タチカラ丸善商店 1993年 タチカラUSA設立 2013年 タチカラホールディングスを設立、現在に至る	天然皮革
ナ イ キ	1981年 創業(ナイキジャパン) 1964年 設立	人工皮革
ミ カ サ	1917年 広島で創業の増田ゴム工業所を前身に日本のゴム製品メーカーとし て設立 1950年 明星ゴム工業に社名を改称し、いろいろなゴム製品を製造 1960年代 バレーボールが世界各国で公認球に認定され、バスケットボール も延長線で手掛け 2001年 ミカサに改称	天然皮革
モ ル テ ン	1958年 ゴム製品製造業として登清氏が設立	天然皮革

社名	製造	公認
ス ポ ル デ イ ン グ	1891年 ネイスミス開発のバスケット ボール競技はサッカーボールで始 めた 旧知の関係から開発を促され、1894 年に当社のボールが初代公認球と なった 1972年 合成皮革のボールを開発	同左実質公認2号か?
タ チ カ ラ	1915年より天然皮革でチューブ入り のボールを製作	1950年 板室至氏により、継ぎ目なしの皮張りの 【シームレスボール】を開発(特許) 1951年 各種競技(バスケット、サッカー、バレー) の公認球として指定を受ける
ナ イ キ	2012年『ナイキエリートチャンピオン シップエアロック』を発表、ウイ ンターカップに採用される【4枚パ ネル】 (ナイキはスポーツ用品、靴やユニ フォームにシフトの模様)	1994年 ウィンターカップのオフィシャルスポン サーになり、1998年から試合球として採用され現在 に至る 2004年 4枚パネルのナイキエリートチャンピオン シップエアロックをJBAが採用
ミ カ サ	第2次大戦後のスポーツ振興施策に ドッジボールの製作技術を生かせな いかとバスケットボールの製造をし た	定かではないが、現存するカタログから1959年の写 真にJABBAのマークが印刷されている 現在、国民体育大会・インターハイ・全中大会の公 式球として採用されている (CF7000・CF6000)
モ ル テ ン	1959年 1号ボール製作	1960年 日本協会検定球として認められる 1980年 国際バスケット連盟主催大会(オリンピッ ク、世界選手権)の唯一公認球となる 1996年 FIBA公認マーク使用ライセンス取得

社名	オリンピックの公認	NBA・WNBAの公認
スポルディング	オリンピックよりNBAに向かっている	1983年 NBAの公認球に採用される 1997年 WNBAの公認球に採用 (ZKマイクロファイバー人工皮革採用)
タチカラ	1964年 東京オリンピック公認球に認定される その後、1968年メキシコ、1976年モントリオール、1980年モスクワで採用	1985年 NBAオフィシャルライセンス取得 1987年 スポルディング社の球技ボールの製造、販売
ナイキ	ウェア・シューズ・等に特化	
ミカサ	1964年 東京オリンピックの試合球に採用 1968年メキシコ、1972年ミュンヘンに採用される	
モルテン	1980年 国際バスケット連盟主催大会（オリンピック、世界選手権）の唯一公認球となる	

社名	ユーロリーグ	技術 & 他の公認球
スポルディング	2012年 ユーロリーグ公認球に採用	2008年 幼児向けボール『ルーキーギア』が開発された 2006年に空気圧が10倍長持ち、【ボール内部に空気より大きい素粒子のNTORO-FLATEガスを封入している】 グリップし易い【ボールの溝が深く、手にフィットするグリップ力が確保出来る】 2001年 マイクロポンプを内蔵した『インフュージョン』ボールを開発
タチカラ		1987年 SPALDINGの球技ボールの製造販売のもととなる
ナイキ	2007-8年にユーロリーグに採用されている『ナイキ4005JABBA』	「ナイキエリートチャンピオンシップエアロック JBA」ウインターカップに採用されている（4枚パネル構造）
ミカサ		CF7000(男子)、 CF6000(女子) 国民体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国中学校体育大会
モルテン		1997年 『JBL,WJBL』唯一の公式試合球となる 2016年 Bリーグ唯一の公式試合球となる

一橋大学バスケットボールクラブ講演会

1930年代の東京商科大学（現一橋大学）の試合

[普及部]

振興会が、一橋大学バスケットボール部から譲り受けて保管していた、戦前のバスケットボール試合の映像を、小谷究先生（日本バスケットボール学会理事、流通経済大学ヘッドコーチ）に分析していただいた。

その結果を昨年の7月、一ッ橋如水会館に一橋大学の現役とOBの皆さんにお集まりいただき、小谷先生が講演会形式で発表された。その際の要旨を小谷先生にまとめていただいたので以下に報告する。



映像の分析は、撮影された場所と時期および映像の中のチームと人物を特定することを目的として行った。映像が収められていたDVDのケースには「昭和10年(1935)~11年頃の東京商大・慶応戦 東商大OB故西沢岩松氏(昭和12年卒)所蔵の8ミリフィルムから抄録 平成25年4月一橋バスケットボールクラブより寄贈」と記載されていた。このことから昭和10年から11年頃の文献史料を中心に映像と照らし合わせながら分析を行った。

・撮影された場所

映像は、屋外コートで実施された成人男性のゲームを撮影したものであり、観戦者が特徴的な外階段から試合を見物している様子が収められている。この外階段と同様のものが、早稲田大学の記念誌に掲載されている写真にもみられ、そこには「帝大コート」と記されている。そこで東京帝国大学の文献史料と映像とを付き合わせて確認したところ、映像の撮影された場所が東京帝国大学の籠排球コートであることが明らかになった。



・撮影された時期

ゲームの映像ではフリースロー成功後のゲーム再開方法はエンドスローで、フィールドゴールの成功後のゲーム再開方法はセンタージャンプからとなっている。コートのセンターサークルには二重の円が描かれている。これらの競技方法と規則書を照合したところ、

映像のゲームが昭和11年(1936)10月から昭和12年8月に施行されたルールに則って実施されていることが明らかになった。

・撮影された人物

東京商科大学と慶応義塾大学の卒業アルバムから映像のプレイヤーが着用しているユニホームが当時の東京商科大学と慶応義塾大学のものであることが明らかとなった。人物については、東京商科大学の卒業アルバムを用いて、映像のなかから昭和12年卒業の西沢岩松氏と思われる人物を特定したが、映像の解像度の限界から史実として確定することはできなかった。

これらのことから、この映像が、昭和11年10月から11月に開催された第13回関東大学リーグ戦の東京帝国大学・籠排球コートで行われた東京商科大学と慶応義塾大学との対戦を撮影したものであることが明らかになった。



小谷先生談

最後に、研究成果を発表する機会を与えてくださった一橋大学バスケットボールクラブと、クラブとの間を繋いでくださったNPO法人日本バスケットボール振興会に深甚なる感謝を申し上げます。

住田 正二さん逝く

小澤 正博



昨年暮れの12月20日、住田正二さんが95歳で鬼籍へ入られた。住田さんが民営化されたJR東日本の初代社長として活躍されたことは周知のことであるが、振興会会長として平成9年から平成17年までの8年間、バスケットボール界に対しても様々な貢献をされた。

筆者は、新宿にあるJR東日本本社に最高顧問や相談役としてお元気に勤務されていた住田さんをたびたび訪問し、相談や懇談をさせていただいた。天に昇られた今、その当時のエピソードを綴ってみることにした。

JR東日本新宿本社へ出向き、ご多忙だった住田さんに面会するには、まず秘書の方に連絡を取ってアポをいただいてからの訪問となる。ご高齢にも拘わらずお元気に活躍されていた住田さんに日程を割いて頂くことは大変な様子だったが、バスケットボール関係のことでという、いつも優先的にアポしていただいたようである。

訪問の際、受付で手続きをとって23階の第二受付へ上がると、そこではいつも秘書の方が待っていてくれて、次の案内をされる。そこから役員室がある26階へは秘書に誘導されながら特別のエレベーターで上がる。通された役員応接室の素晴らしいことは言うまでもない。

やがて住田さんが入室される。手短かに用件をお伝えしたあと、当然のことながらバスケットの話になると、住田さんは身をのり出して話をされた。ルールへの質問から始まり日本リーグの状況や日本協会の動きなどが主だったが、最後はJR秋田バスケットボールチームのことについてよく触れておられた。

また、ご出身の成蹊高校のバスケットや、学士クラブの仲間のことについても、正確に記憶されていて時間が過ぎていく。すると秘書の方が顔を出して次の予定について耳打ちすると、決まって「先に会議を進めるように」と言って、なおもバスケット談義を続けられていたこともあった。筆者の帰り際には秘書と共に必ずエレベーター前までお見送りを頂き恐縮してお暇をした記憶が残る。

住田さんがJR東日本の社長を退かれた頃、振興会会長として招聘したのは成蹊高校時代の先輩で三菱電機の役員をされていた故黒川義雄（愛称クロセン）さんである。当時住田さんの話によれば、いきなりバスケットの先輩が来社して大した仕事はないからと言われ、引き受けられたそうである。

大阪に勤務されていた当時、あまりやることもなかったので神戸学士クラブに入れてもらってバスケットに取り組んだが、それ以来バスケットについては空白の時間が長く、バスケットボール界のこともよく分からず、事情を理解するのに苦労された様子だった。

住田さんが振興会会長に就任されてから、振興会の会合には必ずご出席をいただいたばかりか、それ以外のバスケットボール関係の会合にもよくご参加いただいた。

振興会会合後の懇親会では、挨拶の後、「乾杯の音頭を」と勧めると、私は「完敗」とい

う言葉は嫌いなので、と言って皆をよく笑わせた。

ある時、東京京橋のレストランで、1964 東京オリンピックでバスケットボール競技に関係された方々の会合に出席された。その日は日曜日でいつもの専車ではなく、電車で来られたという。帰り際に地下鉄の駅までお送りしましょうとご一緒したら、「私は運輸省にいたので、鉄道のこととは全て頭に入っていますから心配ご無用です」と言って地下鉄の入り口を降りて行かれたが、これには筆者も参った。

その後、住田さんが著した「鉄路に夢を乗せて」という本を購入して、鉄道事業の本質を理解したことは言うまでもない。



住田さんが振興会会長に就任された頃、任意団体であった振興会は事務所を持っていなかった。振興会事業を発展させるためにも、専用の事務所を持つことは大きな目標であったが予算面を含めてなかなか実現しなかった。理事会を開催するにもどこかの貸会議室を借用して会議を行っていたりもした。

それを聞いた住田さんは、JR 東日本の関係団体が倉庫代わりに使っていた、渋谷駅前のマンションの一室を無償で提供してくれた。これを機会として振興会に事務局長という役柄が設置され、名簿や資料の管理水準が一挙に充実したことは勿論、機関紙バスケットボールプラザも A 4 版冊子形式に充実したのである。



東京オリンピック競技役員懇談会にて中央住田さん

住田さんはオリンピックに対してある持論を持っておられた。それは、オリンピックはその精神からして、アマチュア選手が競う場であり、どの競技においてもプロ選手は参加しない方が良く、アメリカ NBA のようなプロ選手は、世界選手権大会等その競技だけの世界大会で活躍すればいいのではないかとも言っておられた。

最近ではプロアマ関係なくオリンピック各競技が争われているが、過去にオリンピック

は、勝つことよりも参加することに意義があるのだと言われていた時代を思い起こさせる。

平塚市で開催された実業団の全国大会に JR 秋田チームが出場したとき、偶然にも平塚駅で住田さんと一緒になり会場までご案内した。住田さんは体育館に着くなり、早速 JR 秋田のベンチ近くの観覧席へ座られて、じっとプレーを見られていた。ご案内したこともあって筆者もそばにいたが、審判の判定をみて「あれはどうなんだろうかねえ」と問いかけられたことがある。ご高齢になられたといっても、住田さんの心の中では、バスケットボールの血が騒いでいるんだなと感じ取った。

それ以降、住田さんとお会いすることもなくなった最近、住田さんの訃報を聞きバスケットボールの熱血漢がまたおひとり他界されたことにむなしさと寂しさを感じている。

[振興会副会長]

人物抄

小笠原 義昭 さん



小笠原さんは、昭和9年(1934)12月、東京都品川区の出身で現在83歳、小学校4年生のとき学童疎開で家族と離れての生活をし、5年生のとき終戦を迎え、神奈川県川崎市で家族と一緒に生活をし、小学校、中学、高校、社会人として25年間を過ごしたが、昭和45年(1970)から横浜市青葉区にお住まいで大変お元気である。

バスケットボールを始められたのは中学生からで、進学した川崎高校でもバスケット部へ入り、当時神奈川県高校1部リーグで優勝している。

高校卒業後、昭和32年(1957)日本光学株式会社(現在㈱ニコン)へ入社され、ここでも早速バスケットボール部へ入られた。当時、関東実業団連盟に所属していた日本光学だったが、春のリーグ戦では6部あたりだったという。入社された後、東京大井町にあった太田博文の屋敷跡に体育館が建設されたのをきっかけに、チームはシーズンごとに強くなり4年かかって2部迄昇格した。

その頃、日本リーグは発足しておらず、関東実業団1部リーグには日本鋼管、日本鉱業、三井生命、日立本社、鐵興社、東京海上などの強豪がひしめいていた。毎年春に開催されるリーグ戦では、1部リーグを除いて、すべての試合が各チームの帯同審判制であった。

小笠原さんはプレイをしながら帯同審判として笛を吹いていたが、当時関東実業団連盟の競技審判担当役員だった東芝の故森井長太郎さんから、本格的に審判をやるよう勧められ本格的に審判の勉強をするきっかけとなる。

当時、帯同審判制を敷いていた関東実業団連盟は、審判の強化を図ることになり、三井生命の故小張剛作理事担当のもと、教育大学OBで日本鋼管におられた松尾武司さんを中心に諸施策を進め、小笠原さんも東京ガスの滝島さんと共に審判委員会発足に尽力された。

小笠原さんと言えば、審判界で知らない人はいないくらいの名審判、昭和34年(1959)に日本協会公認審判資格を取得され、昭和36年(1961)からは2A級となって、インターハイ、国体、日本リーグ、全日本選手権などの笛を15年間にわたって務められた。

昭和41年(1966)に32歳にして国際公認審判の資格を取得されたが、昨今と比べるとかなり若くして国際公認審判となり、最初に笛を吹いた国際大会は昭和42年(1967)東京で開催されたユニバーシアード大会の笛だったという。昭和43年(1968)に台北で開催された第2回女子アジア選手権大会にも派遣されて、笛を吹かれているが、この頃も日本女子代表はアジアで優勝を争う上位にいたため、上位クラスの笛はなかったそうである。

昭和39年(1964)に開催された東京オリンピックでは、審判担当役員として活躍され、現在では当たり前となっているBOXスコアなどを担当された。

その昭和43年に福井県で開催された国体で、昭和天皇・皇后がご臨席された天覧試合を吹いている小笠原さんの雄姿が毎日新聞に掲載されている。

数多い試合の中で天覧試合を吹ける審判は滅多にいないし、技術的にも高度なゲームコントロールを要求されることはいうまでもない。

これまでの経緯からすると、小笠原さんは審判だけと思われるかもしれないが、バスケ

ットボール界への貢献は、別な面でも相当なものがある。公認審判資格を取られて間もなく、関東実業団連盟の理事となられ、昭和43年(1968)から東京都協会の理事も務められている。更に昭和46年(1969)から故富士秀雄さんの後、2期に亘って関東実業団連盟の理事長を務められ、当時登録チーム数が増え続ける連盟の発展に寄与されている。

関東実業団連盟や東京都協会、日本協会審判委員会の運営に尽力され笛を吹かれた25年間は、日本経済も上昇発展を続け、特に製造業は物づくりに追われていた。

勤務されていた日本光学も、栃木県大田原市に新たな工場が建設された。研究開発部門に勤務しておられた小笠原さんに、これらを担うための転勤が命ぜられ、小笠原さんは50歳にして審判をリタイアすることになった。

やがて東京に復職され、57歳の定年を機会に再びバスケットボールに取り組みされる。

最初に取り組みされたのがミニバスの指導だった。審判界の先輩であった故今泉正一さんから、世田谷区の「三宿ピーナツ」というミニバスクラブの指導を依頼され、平成7年(1995)から10数年に亘って子供たちのバスケットのコーチ、監督を続けられる。長いこと審判を経験してきた小笠原さんが、指導の傍らミニバスの審判資格を取得され、ミニバスの審判を続けられたことはいうまでもない。

こうして再びコートに立った小笠原さんが、70歳をはるかに越え、いつものようにミニバス試合の審判をしていたとき、走っていたミニバス選手から「おじさん邪魔だよ」と言われ、ああもう限界なのかなと悟り、審判としてコートに立つことを止めたという。

一方、長い間実業団の役員を続けられてきた小笠原さんは、当振興会の母体である実業団協力会が発足してすぐに、故富士秀雄理事長に誘われて協力会に加入した。

実業団協力会が、発展的に振興会として再発足してからも、役員として活躍されている。振興会組織の中に普及部や広報部などの専門的組織が設置されてからは、普及部と広報部の両方に所属されて、振興会の発展にも寄与されてきた。

特に、本バスケットボールプラザが、それまでの「振興会だより」からA4版の冊子に替わったころは、渋谷駅前の事務所で原稿作りや編集業務にも熱心に携わられた。

なんとと言っても、審判界での活躍が長かった小笠原さんは、平成11年(1999)から平成28年(2016)までの長期間、その経験を生かして日本協会公認審判審査委員会の仕事も引き受けられている。公認審判の資格審査には、数多い審判状況をコートに出向いて見なければならず、そのご苦労には頭が下がる。

そして、平成13年(2001)、FIBAからの通知で、名誉国際審判員に推薦される。

この人物抄にあたり、小笠原さんに取材を求めたところ、「最近は忘れっぽくなってねー」と微笑まれたが、その温和な人柄とバスケットに対する情熱は衰えを知らない。

この取材に際し、小笠原さんから手記が寄せられているので紹介する。



我が人生のバスケットボール物語

小笠原 義昭

プレイヤーとして

私がバスケットボールに出会ったのは、昭和22年(1947)新制中学一期生として入学した頃です。近くに米軍のキャンプ場があり、一つのリングでゲーム(3対3)をやっている様子を見て、バスケットボールを知って興味を持ち、昭和25年(1950)、神奈川県立川崎高校に入学し、クラブ活動の選択をすることを勧められバスケットボール部に入りました。

体育館に向いて初めて上級生の練習を見てシュートに魅せられ、先輩方の熱心な指導も気に入ってバスケットボールに取り組み、その後約半世紀にわたりバスケットボール漬けの生活を送ることになりました。

当時、川崎高校は神奈川県で1部リーグに所属し、常にトップクラスの高校と対戦し優勝を争っていました。早く試合に出たくて、暇さえあれば体育館でボールに触れて、パス、シュートの練習に励み、2年生でレギュラーになり、神奈川県で優勝することもでき、なおさらバスケットに嵌って練習に明け暮れる毎日でした。

卒業後、東京大井町にあった日本光学㈱へ入社し、関東実業団6部でプレイしましたが、試合結果は「出ると負け」で情けない時代でした。そこで若いバスケットボールを愛する人材を集め、終業後会社の倶楽部で練習を始め、2年目からチームらしくなり6部から毎年優勝をして5年目で2部まで昇格しました。

しかし、選手として全国大会に出場することはできず、限界を感じましたが、バスケットボール大好き人間としては何とかオンザコートで活躍したく、審判ならできるのではないかと考え審判の勉強をし始めました。当時関東実業団では2部以下の試合の審判は、各チーム同士でお互い帯同制で審判をやっていました。

試合ごとに帯同審判として笛を吹く毎に、オンザコートで審判の勉強をしながら楽しみたいと思うようになり、審判の世界へと繋がりを持ちました。

レフェリーとして

審判を始めるにあたり、当時関東実業団で審判担当だった、故森井長太郎(東芝)さん、丸山正敬(鉄興社)さんにお世話になりながら審判委員会のメンバーとなり、本格的に審判を学び始めました。

その頃、関東実業団1部リーグの審判は、日本協会審判委員会、学校の先生及び外部の方々の協力を得て運営していました。昭和35年(1960)、関東実業団では、独自で審判ができるようにしたいと考え、審判員の育成について検討がなされました。小張剛作(三井生命)さん、松尾武司(日本鋼管)さん、故晨匡一郎(大和証券)さん、藤堂匡令さん等、諸先輩の指導の下で審判の育成がなされ、毎年何人かの公認審判員が誕生、実業団のゲームが独自で運営できるようになりました。また、良き仲間もでき、故滝島幸雄(東京ガス)、小澤正博(現振興会副会長)等、多くの仲間とお互いに切磋琢磨して審判に励みました。

公認審判として全国大会へのデビューは昭和36年(1961)の青森のインターハイでした。その後、日本協会、各連盟(実連、学連、高体連)等の全国大会へ審判員として参加し、多くの諸先輩の方々に指導を受けながら審判に夢中となり、オンザコートで審判の勉強をしながらバスケットボールを楽しみ、思い出多き時代を過ごすことができ、感謝しており

ます。

昭和41年(1966)に念願の国際公認審判員のライセンスを取得して、国際試合の審判を経験し、世界のバスケットボールを知ることもできました。数多くの審判をした中、国内のゲームでは昭和43年(1968)福井国体での一般男子(大阪V S 茨城)の天覧試合と、国際ゲームでは昭和43年に台北で開催された女子アジア選手権大会に審判員として派遣されて笛を吹いたことが、思い出の一コマとなっています。

オンザコートから離れて

昭和59年(1984)、勤務の都合により審判をリタイアしました(50歳)。平成3年(1991)、㈱ニコンを定年退職し、第二の人生を送るにあたり、好きなバスケットボールに関して、これまでお世話になったバスケットボール界に何か恩返しができないかと考えていた時、故今泉正一さんからミニバスの指導を依頼され、15年間世田谷区のミニバスチーム「三宿ピーナツ」で指導をしながら、ミニバス審判員の育成に努め、世田谷区のミニバスケット連盟の方々に大変お世話になりました。

その後は、ボケ防止と体力維持のため、JBL、bjリーグ、Bリーグ、Wリーグ、学生(大学、高校)のゲームに足を運んで観戦することによって、現役の選手、審判員の活躍を見て変わりつつあるバスケットボールに驚いています。

最近、テレビ放映が多く家にいながら見ることができ、NBA、Bリーグ、Wリーグ、学生の試合を楽しみに観戦しております。

長い間バスケットボールに携わり、多くの人と出会い、色々なことを学び、私の人生に役立つことが大変多く、バスケットボールに出会って良かったと感謝しています。

今、日本のバスケットボール界は転機に差し掛かっていると思います。いずれにせよ、バスケットボールを日本のスポーツ界でメジャーにすることが大切だと思います。現在、日本協会を中心に色々な企画が成されつつありますが、Bリーグの発展などが挙げられます。少し長い目で少しでも先へ進み、感動を覚えるゲームをできる限り多くするチーム作りが大切だと思っております。

現在、日本の経済情勢を見るとき、従来の企業中心のチーム作りには限界があり大変困難な状態です。地域密着型のチーム作りによってファン層の拡大を図り、多くの人を観戦できるようにすることがバスケットボール界の発展に繋がることでしょう。

私もできるだけ多くのゲームに足を運び、観戦して、バスケットボールファンとして少しでもお役に立つことができればと考えております。

[元国際公認審判員]

会員だより



Wリーグオールスター2017-18 in TOKYO

東京ガールズコレクション 2017 A/W とコラボ

池田 理

Wリーグオールスター2017-18 in TOKYO が12月16日、東京都大田区総合体育館で行われた。

過去2回新潟で開催されていたイベント「Wリーグオールスター」がファン待望の東京で開催され、日本代表「AKATSUKI FIVE」メンバー、Wリーグトップ選手、元オリンピック、全中優勝チームと多様な国内選手が一堂に会し開催された。

当日は、オールスターゲームに加え、Wリーグレジェンドチャレンジマッチ、スリーポイントシュートコンテスト、スキルズチャレンジコンテスト、「東京ガールズコレクション 2017 A/W」とコラボレーションしたハーフタイムショーと多彩なイベントがあった。



Wリーグ 斎藤会長

< オールスターゲーム >



MVP 渡嘉敷来夢

オールスターゲームは、Wリーグ斎藤会長が観戦されるなか、WリーグチームがEASTとWESTに別れ、ファン投票、Twitter投票、リーグ推薦により各チーム13名で熱戦が繰り上げられた。各選手が笑顔でプレイし、リーグ戦の真剣勝負とは異なる試合運びで、観客も大いに楽しんだオールスター戦であった。

試合は、EASTが前半を53-32で大量リードし、後半を48-50でWESTの反撃をか

わして、101-82で快勝した。

MVPにはこの試合最多得点22点(2点シュート: 11/15)を上げたEASTの渡嘉敷来夢(JX-ENEOS)が選ばれた。MIPには、3点シュート3本を決め



MIP 大神雄子(トヨタ自動車)

会員だより

た今シーズンをもって引退する、WESTの大神雄子(トヨタ自動車)が選ばれた。

第1ピリオド、EASTは「AKATSUKI FIVE」メンバーの#0 吉田、#9 町田、#10 渡嘉敷、#21 大崎と#3 藤井、WEST は「AKATSUKI FIVE」メンバーの#2 長岡、#6 本川、#39 赤穂、#1 大神、と#12 三好でスタート。EASTは、#10 渡嘉敷、交代で入った#15 山本の3点シュートなどで30点をあげた。一方、WESTは#12 三好の3点シュートなどで19点をあげるがEASTに11点差のビハインドで終了。



#52 宮澤夕貴 (JX-ENEOS)
渡嘉敷に次ぐ21点を上げた

プレイしてシュートを決めた#8 丹羽、そしてさらにベンチメンバーが活躍し22点をあげる。WESTはチーム最多20点(2点シュート：4/4、3点シュート：4/7)をあげた#12 三好、さらに#1 大神、#6 本川らが活躍して23点をあげ、EASTとの差を1点縮める。

第4ピリオド、WESTはこの試合19点(3点シュート：3/7、2点シュート：5/8)をあげた#1 大神らが活躍し27点をあげる。EASTは、インサイドではMVPの#10 渡嘉敷、アウトサイドでは3点シュート女王でこの日6本目の3点シュートを決める#15 山本などの活躍で26点をあげ、追い上げるWESTを振り切り101-82で前回新潟大会のリベンジを果たした。

第2ピリオド、WEST は#1 大神、#13 伊集、#26 川原が活躍し13点をあげる。一方、EASTは#15 山本、#11 篠崎他が23得点し前半53点をあげてリードを20点に広げ、前半を終了。

第3ピリオド、EASTは、#3 藤井の連続3点シュート、この試合で#10 渡嘉敷に続く21点をあげた#52 宮澤、のびのびとプレ



#12 三好南穂 (トヨタ自動車)
WEST最多得点20点を上げた

会員だより

<Wリーグレジェンドチャレンジマッチ>

オリンピック(村上睦子、濱口典子)に地元東京羽田ヴィッキーズの現役選手3名が加わったWリーグレジェンドチームが、オールスター戦に先立ち、第47回全国中学校バスケットボール大会で二連覇を果たした春日部市立豊野中学校と対戦した。全中を制覇した豊野中はレジェンドチームに臆することなく、#17 倉持ほか、全員が果敢に攻め、勢いが感じられた。



オリンピック 村上選手



オリンピック 濱口選手

前後半各10分の試合。前半、豊野中は#17 倉持の活躍によって16-12とリード。後半、高さで勝るWリーグレジェンドが追い上げるが、運動量に勝る豊野中が26-24の1ゴール差で勝利した。



豊野中 #17 倉持選手



豊野中 #16 新井選手

会員だより

<スリーポイントシュートコンテスト>

山本千夏(富士通)が3連覇なるか注目のこのコンテストにリーグ屈指のシューター8選手が参加した。今回から2点のカラーボールが4球追加され、従来の5か所の中で、選手の希望する場所に集めることが出来るようになった。すべてを成功させると34点になる。



優勝 山本千夏

予選ラウンドを勝ち上がった4選手により決勝ラウンドが行われた。一番手の三好夏穂が22点の高得点を挙げて以後の選手にプレッシャーをかけ、二番手の長岡萌子は18点に終わる。三番手の山本が最後の一投のカラーボールを沈め23点をあげトップにおどり出る。決勝ラウンド最終選手の宮澤夕貴は20点に終わり、山本が僅差で3連覇を達成した。



優勝 本川沙奈生と
吉田亜沙美

<スキルズチャレンジコンテスト>

スリーポイントシュートコンテストと同様に本川沙奈生(シャンソン化粧品)が3連覇なるか注目のこのコンテストにリーグから8選手が参加した。今回から東西の代表選手が対戦しタイムの早い選手が勝ち上がるトーナメント方式でチャンピオンを争うこととなった。

準決勝、1回戦を勝ち上がった4選手が決勝進出を争った。第一試合、水島沙紀が吉田亜沙美に勝利し決勝に勝ち上がった。第二試合は札幌山の手高OG対決で町田瑠唯に勝利した本川が勝利し決勝に進出した。決勝は水島にハンドリングで差をつけた本川が3連覇を達成した。優勝後、日本代表とともに戦ったキャプテン吉田が駆け寄って祝福したのが印象的であった。

<ハーフタイムスペシャルコラボレーションイベント>

若い女性に圧倒的な支持のあるTGC(東京ガールズコレクション)にWリーグ選手が参加して会場を大いに沸かせた。



ランウェイを歩く潮崎里奈(東京羽田)



ランウェイを歩いたWリーグ6選手(左より6名)



スポーツと障がいのある人達

2020年のレガシーに向かって

上谷 富彦

2020年、東京オリンピック・パラリンピック開催まであと1000日を切った。

メディアを通して、各競技団体は選手強化や新しい競技種目の紹介などを行い、気運が高まっている。

パラリンピックも普及活動が活発化してきた。障がいがあっても、懸命にスポーツに取り組む選手の姿がCMに登場し、見る者に多くの感動を与えている。

我が国では、平成25年、スポーツ基本法が改正され、第1条の目的が「スポーツの振興」から「スポーツを通じた**社会の発展**」に変わった。従来 of スポーツ選手を中心とした法制から、障がい者、高齢者を含めた全ての人々がスポーツに参加できる社会を目指すことになった。

新しく「スポーツ庁」が誕生し、他の省庁にまたがっていた部分がスポーツという目線で一本化することになったのである。これまで、障がいのある人のスポーツは厚生労働省が所管し、障がい者が生活をより豊かにする視点や、リハビリテーションの一環として位置づけられていた。「スポーツ庁」では「健康スポーツ課」の中に「障害者スポーツ振興課」が設置され、障がいがある人もスポーツに参加できる環境の充実が課題として掲げられた。基本的には、平成28年度、障がい者スポーツ関係予算の中で、新規に「特別支援学校等を活用して障がい児・者のスポーツ活動実践事業」として5千万円が計上された。東京都では、特別支援学校の体育施設開放に踏み出して、地域の人々が活用できるようになった。スポーツを行う場が増加したことは、障がいのある人にとって喜ばしい事である。

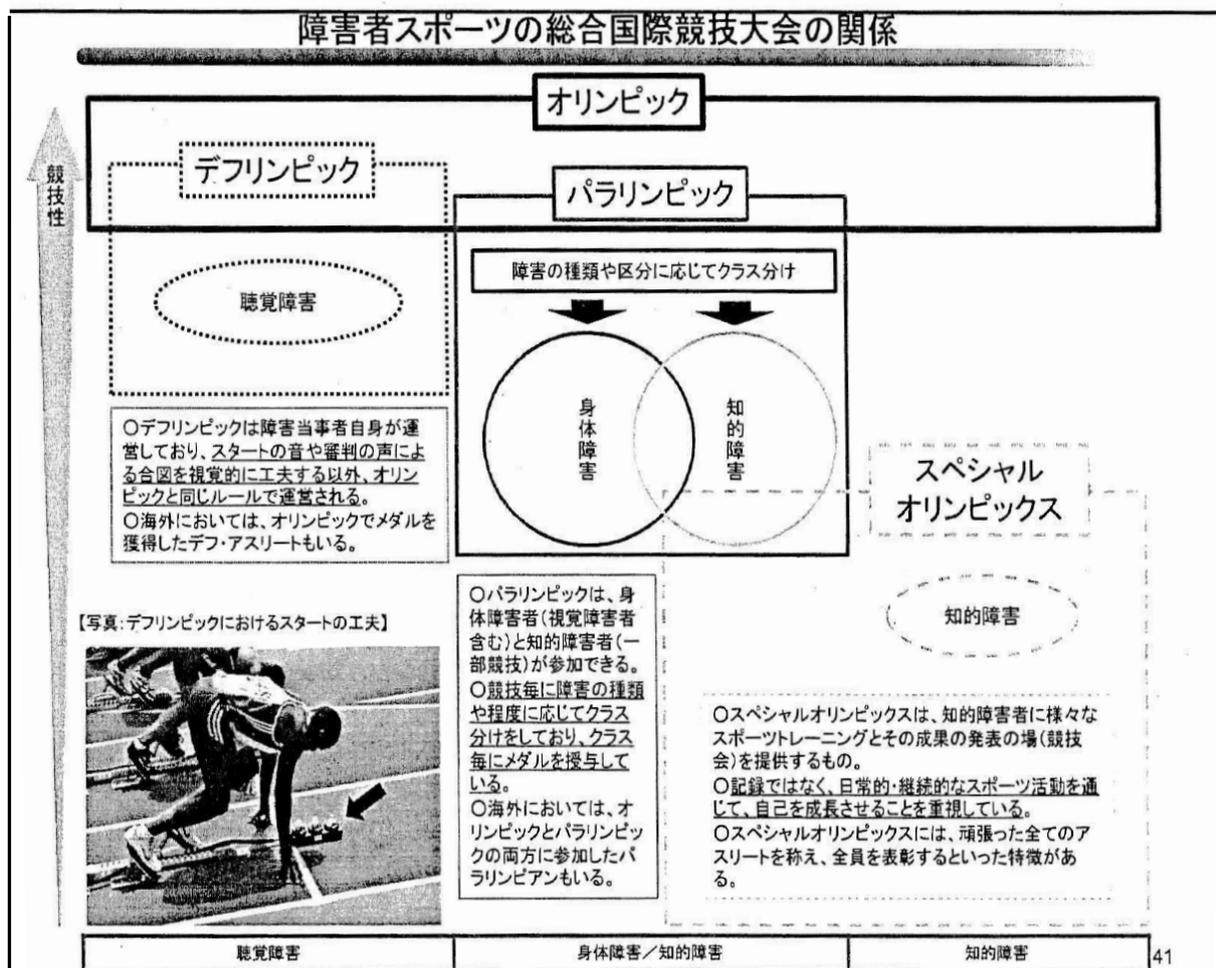
ここで「障害者スポーツの総合国際大会」（次ページ参照）についてみてみよう。

障がい別にみると、「身体・知的(一部のみ)」に関しては「パラリンピック」があり、「聴覚障がい」については「デフリンピック」がある。いずれも競技性の高い大会であり、各国の予選を経たトップレベルの選手が参加する。「パラリンピック」の選手の中には健常者との予選を勝ち、「オリンピック」に参加する選手もいる。

これとは別に、知的障がいに限って参加できる「スペシャル・オリムピックス」（以下、SOという）がある。SOの使命は知的障がいのある人たちに**年間を通じて**様々なオリンピック形式によるスポーツ・トレーニングと競技会とを提供することである。（このため、オリンピック複数型になっている。）

その特徴は、トップアスリートの育成ではなく、障がいの程度に応じたレベル分け（ディビジョニング）が行われ、どのレベルでも大会に参加できるようになっている。競技会では、普段のトレーニング成果を発表した**しるし**として金・銀・銅のメダルのほか、参加選手全員が表彰される。

残念ながらわが国でのSOの知名度は決して高くはない。しかし、前述のような社会環境の変化によって障がいのある人もスポーツに参加する機会が増えつつある。



SOは日常的にスポーツ・トレーニングの場を提供していることで、行政からも注目されている。付近の場所で日常的に健常者も障がいのある人も一緒にスポーツを楽しむ社会に向かって着実に進んでいる。

加えて、バスケットボール界ではBリーグが発足した。各チームは地域の中で障がいのある人たちも一緒にバスケットをやり、また観戦する方向が具体化している。

アルバルク東京は、11月中旬のホームゲームを「SOデイ」と位置づけ、SOの活動を紹介してくれた。

2020年以降、地域社会で障がいのある人もない人も一緒にスポーツを楽しむことこそレガシーとして重要であると考えている。

[SO日本・東京 地域展開委員会 委員長]



アジアのバスケット好きの仲間たち

2017年アジアシニアバスケットボール大会

鈴木 承二

人生100年時代と呼ばれてきてシニアのライフスタイルがそれぞれ輝き始めた近年、第7回のアジアシニアバスケットボール大会（アジアシニアカップ）（40歳以上）がバンコックで開催された。それらのレポートを寄稿する。

2010年に、第1回アジアシニア大会がタイのバンコックで開催され、本年で第7回を迎えた。このシニア大会とは、2005年に発足したアジアカップ（当時、アジヤカップと呼称されていた）から変化したものである。アジアカップは、アジア各国に駐在している日本人の“バスケット好き”が年1回集い、“技と親睦”を深めるために出来たものである。

アジアカップは、元々駐在する日本人が各国の日本人学校等を中心に休日に集まり、子供達の指導もかねて練習していたものが“事の始まり”である。当初は、バンコック、香港、ベトナム・ホーチミンの3ヶ国チームの“力”によって動き始め、互いに遠征をし合って親睦を深めた。3ヶ国の若きリーダー（バンコックを除き、28歳・32歳のリーダー）が発起人で、第1回が香港で、記念大会の第10回も香港で開催、昨年（2016年）の第13回は台湾で開催された。

この第13回大会は、世界レベルの競技会ユニバーシアードが8月に開催されるための改装工事などがメイン会場の“台北体育館”にあり、例年5月開催が5月末から1ヶ月前倒しの4月29日開催となった。日本のゴールデンウィークにも関わらず、男子15チーム（インドが初参加）と女子5チームの総勢260名で競われた。

本大会のベースは、毎回1年の練習の成果発表と、試合後の各地同胞との親睦を深める大会に成長することにある。

この大会を重ねること6年目には、大会参加者が増加、当然“古参兵は”30歳後半から40歳になりスタメンもならず、“競ったゲーム”では試合に出られない状態になり、欲求不満が生じた。新たに模索した大会は、規定を40歳以上とし、2009年にバンコック、香港、深圳の3チームがバンコックで親善試合をしたのが始まりである。翌年にそれらを元に各国のリーダーとともに第1回アジアシニアバスケットボール大会の発足となったのである。



今大会女子チームの叱咤激励場面



今大会の一場面、ジャンプシュート

会員だより

今回の第7回は、昨年（2017）末の12月16日に男子8チーム、女子4チームの総勢180名で競われ、男子はシンガポール、女子も同じくシンガポールの優勝であった。昨年から始まった、50歳以上のスーパーシニアは、バンコクの優勝、年々増える高齢化も日本と同じである。

その後、宿泊先の Pullman Hotel での表彰式、懇親会が行われ大いに親睦を深めた。その先の二次会は各国、各チーム混合で15グループくらいに分かれ、バンコクの夜を楽しんだようだ。



今大会優勝のシンガポールチーム



今大会でのシニア懇親会

この二つの大会（アジアカップとアジアシニアカップ）の間には、3月に“チャイナカップ”が、9月に“アセアンカップ”が、それぞれ開催されており、本戦の腕試し大会？として、新たに加わった駐在員の“本戦に備えた顔見世興行”の場にもなっている。“チャイナカップ”には中国の北京、上海、蘇州、広州、重慶、深圳、と香港、台湾が加わる8チームが、“アセアンカップ”にはベトナムハノイ、ホーチミン、マニラ、ジャカルタ、シンガポール、マレーシア KL、バンコクの8

チーム（*今年にはインドが参加表明）が、それぞれ参加した。

懇親会には先輩、後輩、同郷、元の実業団チーム仲間、最近では、Bリーグの卒業生等も含まれている。“バスケット好きの仲間”が益々増えつつあり、バスケットボールの底上げに“貢献”出来ればと思う。2018年は5月に14thアジアカップが“中国広州”で、10月には8thアジアシニアカップがバンコックで、それぞれ開催されることになった。

* 駐在赴任が解けて日本へ帰国の仲間に、日本での“繋がり”とシニアの受け皿として、日本バスケットボール振興会のお手伝いをして頂く方策を思案中である。前回76号での“会員だより”渋谷美由紀さんの寄稿“代々木から香港に”がその一つのきっかけになるようにと、今回の親睦会で香港の女子チームとシニア（スーパーシニア）の“安”さんへ、御礼とともに、76号の“バスケットボールプラザ”をお渡し致しました。

訃 報

住田 正二 氏 平成29年12月20日 享年 95

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大のご尽力を賜りました。

ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

事務局だより

◇第11回全国シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI

平成30年度の大会は、代々木第二体育館の改修工事のため、平成30年5月24日(木)～5月25日(金)に国立オリンピック記念青少年総合センター体育館で開催いたします。本年も男子60歳以上/女子50歳以上/男子70歳以上の試合を行いますので積極的にご参加ください。

<国立オリンピック記念青少年総合センター体育館>

東京都渋谷区代々木第二体育館神園町3-1 TEL 03-3469-2525

地下鉄千代田線 代々木公園駅 または 小田急線 参宮橋駅 下車

参加条件は下記の通りです。

- (1) 男子60歳以上、女子50歳以上で1チーム8名以上の構成(含む70歳以上)
- (2) 当該チームに振興会会員が3名以上含まれること(参加資格)
- (3) 参加費 25,000円/チーム
- (4) 原則として各チームとも2試合を行う、組み合わせ、試合時間は主催者責任にて決定する
- (5) 懇親会

5月24日(木) 17:30～ 参加者と振興会会員による懇親会を開催する
会場敷地内のカルチャー棟2F レストラン「とき」 会費 5,000円予定

参加を希望されるチームは、3月末日までに事務局へメール、FAX、電話にてご連絡ください。 事務局連絡先(火曜日、木曜日) TEL/FAX 03-3219-9311

MAIL sinkokai@jbbs.jp

◇バスケットボール関係諸資料について

戦前の昭和5年(1930)、関東大学リーグ戦が創設されました。その時のリーグ戦参加校は数年後に100年の記念を迎えます。

振興会事務所には、戦前の大日本協会機関紙「籠球」や、戦後の機関紙「バスケットボール」などを全巻保管しています。戦後のリーグ戦のプログラムなどの各種資料も多く保管していますので、記念誌編纂等の資料として活用して頂ければ幸いです。

プラザ こぼればなし

- ◇ 女子日本代表は、アジアカップで優勝して 2018 年 9 月下旬にスペインで開催される「FIBA 女子ワールドカップ 2018」への出場が決まっている。この大会は、オリンピック予選となり、前回オリンピック優勝のアメリカ、開催地スペインの他、下記の各地区代表が参加する。
ヨーロッパ地区 5 チーム：フランス、ベルギー、ギリシャ、トルコ、ラトビア。
アジア地区 4 チーム：日本、オーストラリア、中国、韓国。
アメリカ地区 3 チーム：カナダ、アルゼンチン、プエルトリコ。
アフリカ地区 2 チーム：ナイジェリア、セネガル。
全 16 チームが 4 グループに分かれ各グループで順位を決めてトーナメント戦に入る。世界ランク 13 位の日本は、グループ C でスペイン（2 位）、プエルトリコ（22 位）、ベルギー（28 位）と対戦するが良い成績に期待が持てそうだ。

- ◇ 男子日本代表は、中国で開催される「FIBA ワールドカップ 2019」に向けてアジア地区 1 次予選を 2019 年 2 月までホーム&アウェー方式で戦っている。
第 1 ウィンドウ、ホーム戦はフィリピンに 71-77、アウェーはオーストラリアに 57-82 と連敗に終わり、チャイニーズ・タイペイとは 2 敗で並んでいる。
第 2 ウィンドウのホーム戦は 2 月 22 日に横浜国際プールでチャイニーズ・タイペイと、アウェー戦は 2 月 25 日にフィリピンと対戦する。本誌がお手元に届くころに結果は出ているであろうが、オリンピック予選ともなるワールドカップに出場できなければ、開催国であっても 2020 東京オリンピックへの出場は難しくなる。

- ◇ この 3 月末で実業団、クラブ、教員、家庭婦人の各連盟が統合して社会人連盟として発足する。試合は、9 地域、47 都道府県、それぞれのレベルでリーグ戦やトーナメント戦、全国選手権予選が開催される。
これまでの各連盟は解散となり、その歴史に幕を下ろすが一抹の寂しさも憶える。新社会人連盟に参加できない弱小チームも多く存在すると思われるが、これらのバスケット愛好者がバスケットボール界の底辺で心置きなく活動できるように支援することも大切だろう。

- ◇ さいたまアリーナで開催された天皇杯・皇后杯の全日本選手権大会ファイナルラウンドでは、出場チームが男女ともトップリーグチームになってしまったためか、いささか興味が削がれた。
会場が大きいこともあって、準々決勝戦は観客もまばらに見え、かつて代々木で開催されたときの熱気を感じられなかった。勝負はともかく、大学や高校チームがトップリーグチームに食い下がる試合を期待しているファンが多かったことも忘れてはなるまい。

NPO法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／FAX (03) 3219-9311
メール sinkokai@jbbs.jp
